

2月25日(水) 県主公民館に於いて、県主公民館と県の里まちづくり推進協議会の共催で、生涯学習講座「まちづくり講座が開催されました。」

今回は、総社市で地域の資源を活かした地域活性化を実践されている『NPO法人吉備野工房ちみち』から理事長の加藤せい子さんを講師としてお招きし、『学びを活かす地域づくり！人づくり！』というテーマで講演とワークショップをお

願いしました。従来の講座と違い、講師のお話を一方的に聞くのではなく、講座の後半は参加者全員が作業に参加し、自由に発言するという形態で進行されました。これは参加者の、様々な想いやアイデアを出し合うことで、問題解決や新しい発見、創造や学習といった人づくりにも繋がる手法と言われています。最初は慣れないこともあり、なかなか作業に取り組みませんでした。加藤理事長

平成26年度井原市がんばる地域応援補助金事業

『いつしよにしようや〜まちづくり』

県の里まちづくり推進協議会まちづくり講座  
県主公民館生涯学習講座

県の里まちづくり推進協議会  
はぐくみの里部会  
佐藤 隆



第8号

発行  
県の里まちづくり推進協議会  
県主地区自治連合協議会  
県主公民館  
県主地区社会福祉協議会

のたくみな話術で、会場の雰囲気も和やかになり、後半は大いに盛り上がり、笑顔で意見交換が行われるようになりました。また、自分が得意な事、出来る事を用紙に記入し、参加者の前で、全員が大きな声で発表することも行いました。これは地域に眠っている大切な人的財産の発掘でもあり、大変有意義なプログラムだったと思えました。

今回の講座は、主催者側の予想を大幅に上まわる55名の参加がありました。これも、まちづくりの考え方が少しずつ浸透してきた証だと思えます。また、参加者が作業したり、自由に意見交換するといった、従来とは違う形態だったにもかかわらず、皆様が柔軟に対応してくださいました。これらは、今回のテーマでもある『学びを活かす地域づくり、人づくり』にピッタリとマッチしたものであったと考えます。これからは地域課題を解決していくた



めには、どうしたらよいかを地域全体で考え、主体的に行動できる人材の育成を着実に進めて行きましょう。

# 県主の里まぢびんろ

## アンケート調査集計結果

- 実施期間…平成26年11月11日から12月31日まで
- 一般の部…配布戸数441戸 回収戸数348戸 回収率79%
- 子育ての部…配布人数125人 回収人数98人 回収率78%
- 実施主体…県の里まぢづくり推進協議会  
県主地区自治連合協議会  
県主地区社会福祉協議会



このたびは、福祉アンケート調査を実施するにあたり地域の皆様にはご多忙中ご協力をいただき、誠にありがとうございました。

調査内容を集計しましたので、以下一部を抜粋してご紹介いたします。

集計結果は、皆様の貴重なご意見を集約したものです。今後、詳しい分析を行い県主地域の福祉活動を推進する上で、基礎資料として活用させていただきたいと考えております。

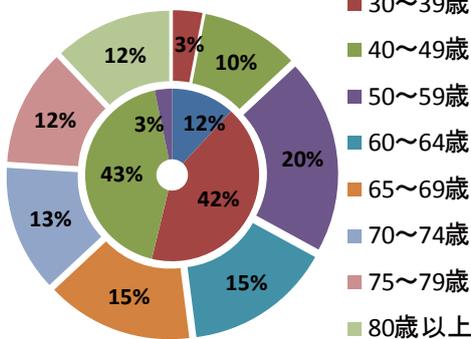
今後とも、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

※集計結果の数値は、未記入・複数記入などにより必ずしも回収率等に一致するものではありません。

### 一般アンケート結果

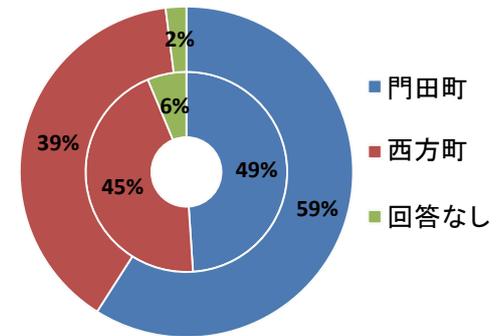
回答者の年齢

(外円：一般、内円：子育て中)



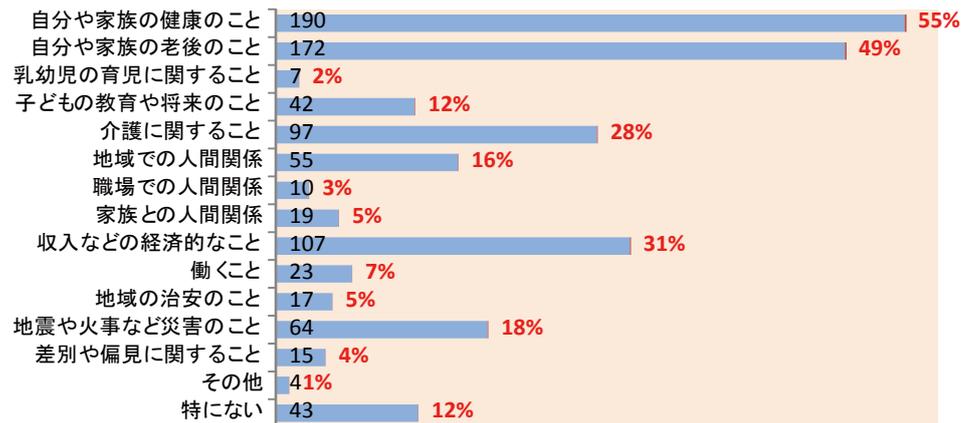
回答者の住まい

(外円：一般、内円：子育て中)



①「あなたは、日頃の生活の中でどのような悩みや不安を感じていますか」では、複数回答としており、回答者の約半数の方が自分や家族の健康、老後のことに関心をもたれており、高齢化の進展と共に健康維持にかかる経済的な悩みや不安をお持ちである結果となっております。一方、地震や火事などの災害について不安をお持ちの方(18%)もおられます。また、地域・職場・家族での人間関係(24%)、差別や偏見に関する悩み(4%)が選択されており、良好な人間関係が保たれ差別や偏見のない、明るく安心安全な県主にしたいものです。

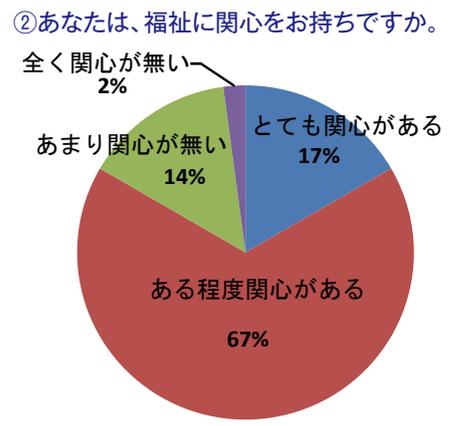
①あなたは、日頃の生活の中でどのような悩みや不安を感じていますか。(○はいくつでも)



②「あなたは、福祉に関心をお持ちですか」では、「とても関心がある」「ある程度関心がある」と84%の方が回答されています。

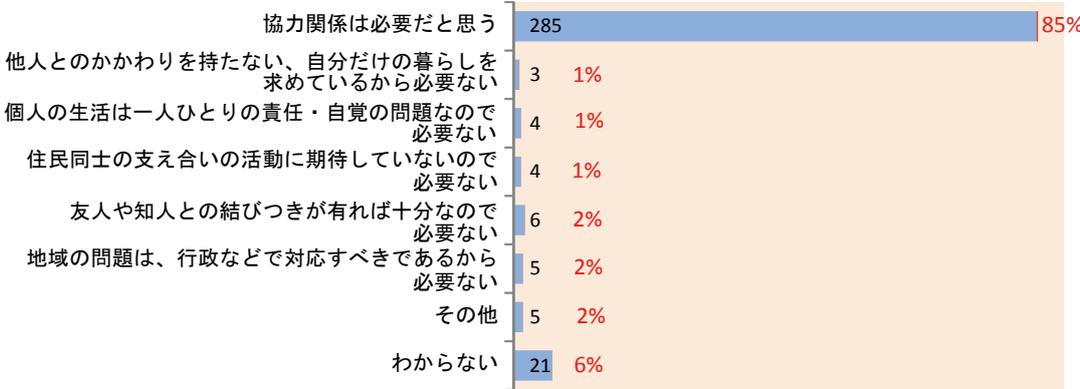
県主地区の皆さんの福祉に対する関心の高さが伺えます。

④「あなたは、福祉に関心をお持ちですか。」



③「あなたは、地域で起こるさまざまな問題に対して、住民同士の協力関係は必要だと思いますか。」

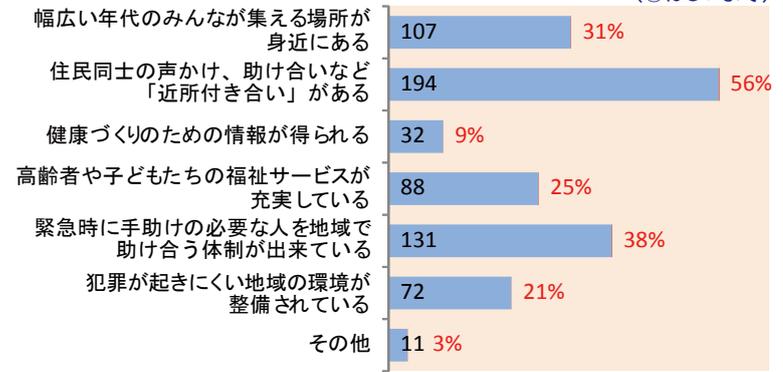
③あなたは、地域で起こるさまざまな問題に対して、住民同士の協力関係は必要だと思いますか。



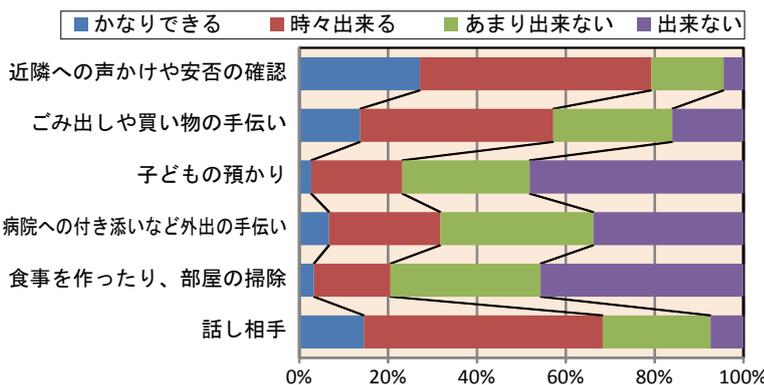
設問項目はそれぞれ関連しており、情報交換の場や近所付き合いが深まることで、各項目の内容が充実した地域になるものと思われます。

⑤「あなたは、ご近所で困っている人がいた場合、「頼まれたら」できることはありますか。」

⑤あなたの住むこの県主を、より住みやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)



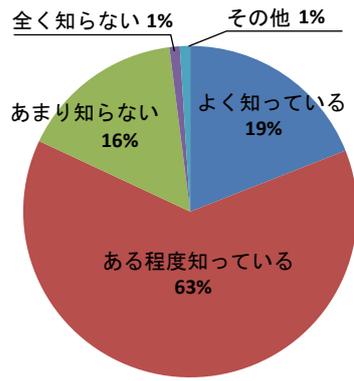
⑤あなたは、ご近所で困っている人がいた場合、「頼まれたら」できることはありますか。



しかし、「こどもの預かり」や「食事を作ったり部屋の掃除」など家庭内や、子どもの預かりに関してはお手伝いをする上では、頼む人・頼まれる人の信頼関係などが大きく関わってくるものと思われます。

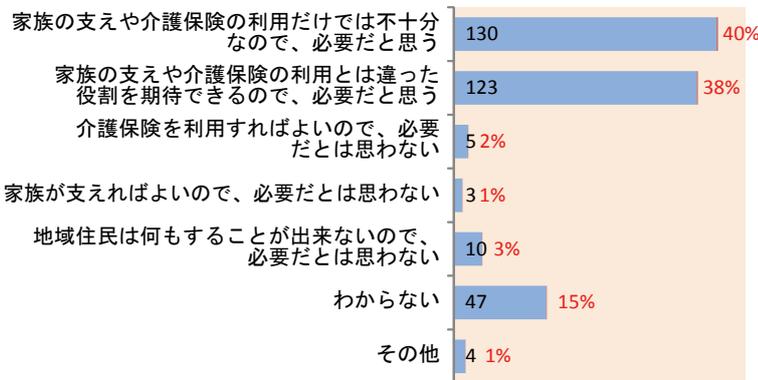
⑦「認知症の高齢者が生活するために、地域住民の協力が必要だと思いますか」では、「家族の支えや介護保険の利用だけでは不十分なので必要だと思う130人」(40%)との

⑥あなたは「認知症」についてどの程度知っていますか。



⑥「あなたは「認知症」についてどの程度知っていますか」では、「よく知っている」(19%)、「ある程度知っている」(63%)と約8割の方が回答されています。一方、「全く知らない」「あまり知らない」と回答された方も(17%)ありました。今後、高齢者人口の急増と共に認知症患者も増加が見込まれており、より多くの人が正しく認識しておくことが必要とされます。

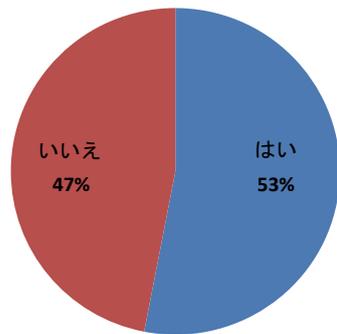
⑦認知症の高齢者が生活するために、地域住民の協力が必要だと思いますか。



⑦「認知症の高齢者が生活するために、地域住民の協力が必要だと思いますか」の回答が最も多く、次いで「家族の支えや介護保険の利用とは違った役割を期待できるので必要だと思う123人」(38%)の順になっており、協力が必要と考えられている方が約8割を占めています。このことから地域住民の協力が何らかの形で必要とされていることが伺えます。なお、「その他」では、「近所の人に知られたくない」等の回答もありました。

⑨いざという時のための情報の管理伝達先は、「家族・親族」と回答された方が8割を占めています。井原市社会福祉協

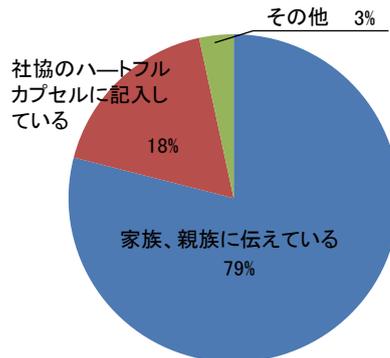
⑧あなたは、いざという時の為に、病気の有無、服用している薬や病院などの「健康に関する」情報の管理と伝達の方法を準備していますか。



⑧「いざという時の為に、健康に関する情報の管理と伝達の方法を準備していますか」では、準備されていない方が約半数を占めています。いざという時、持病の有無や服用している薬の名前や場所を知っている家族や介護者が側にいるとは限りません。健康に関する情報の伝達方法を身近に準備し、緊急時に警察、消防、医療機関等に正確な情報が伝えられるよう備えておくことが必要とされます。

⑩「いざという時の為に、あなたは、地域での情報の共有は必要だと思いますか」では、「個人情報取り扱いについて、適正に管理されれば必要だ」と回答された方が83%を占めています。反面、「個人情報を出すべきではない」との回答が16%あります。共助を進める上では、いざという時の情報が警察、消防、医療機関等必要な機関に伝え

⑨前問で「はい」と回答された方のいざという時の情報の管理伝達先



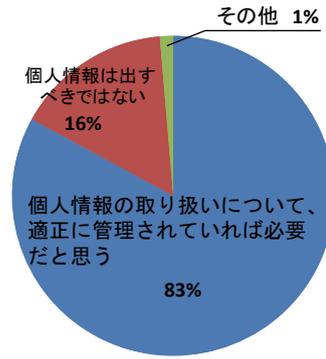
⑨前問で「はい」と回答された方のいざという時の情報の管理伝達先は、現在、ハートフルカプセルは、一人暮らし・寝たきり及び高齢世帯を対象としています。高齢化がさらに進むに伴い地域を挙げて設置を推進する必要があります。

当アンケートは、子育て中の方々にご協力いただきました。内訳は次の通りです。  
 小学生51人(44%)、中学生38人(33%)、幼稚園11人(9%)、保育園9人(8%)、家庭で保育中7人(6%)。

### 子育てアンケート結果



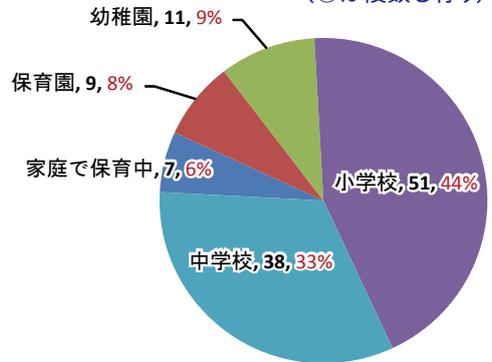
⑩いざという時の為に、あなたは、地域での情報の共有は必要だと思いますか。



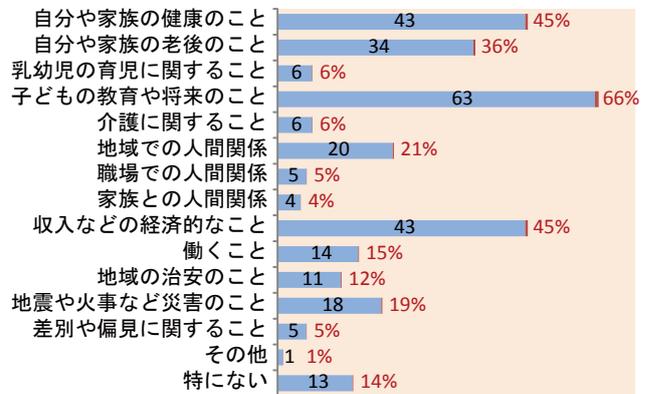
られるよう情報の共有化に理解を深めていただく必要があると思われま。

①「日頃の生活の中でどのような悩みや不安を感じているか」では、複数回答としており、回答のあった95人中、1位は「子どもの教育や将来のこと」で63人(66%)の方が不安を感じておられ、2位が「自分や家族の健康のこと」「収入などの経済的なこと」が同数の43人(45%)、次いで「自分や家族の老後のこと」34人(36%)となっています。  
 また、「地域での人間関係20人」「職場での人間関係5人」「家族との人間関係4人」と人間関係で悩まれている人は29人と全体では30%を占めています。

お子さんの当てはまるところを○で囲んで下さい。(○は複数もあり)

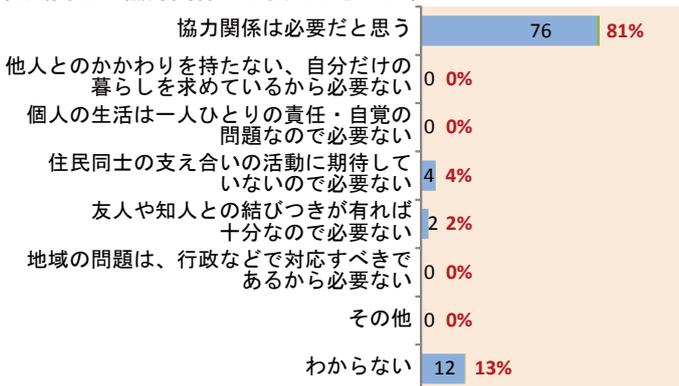


①あなたは、日頃の生活の中でどのような悩みや不安を感じていますか。(○はいくつでも)

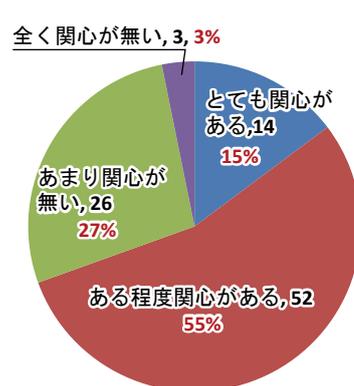


②「あなたは、福祉に関心をお持ちですか」では、「とても関心がある14人(15%)とある程度関心がある52人(55%)を合わせると、約7割の方が福祉に関心を持っておられ、福祉に対する関心の高さが伺えます。また、「全く関心が無い」人は3人(3%)となっています。  
 ③「あなたは、地域で起こるさまざまな問題に対して住民同士の協力関係は必要だと思いますか」との問いに対しては、「住民同士の協力が必要」と答えられた方が76人(81%)と、

③あなたは、地域で起こるさまざまな問題に対して、住民同士の協力関係は必要だと思いますか。

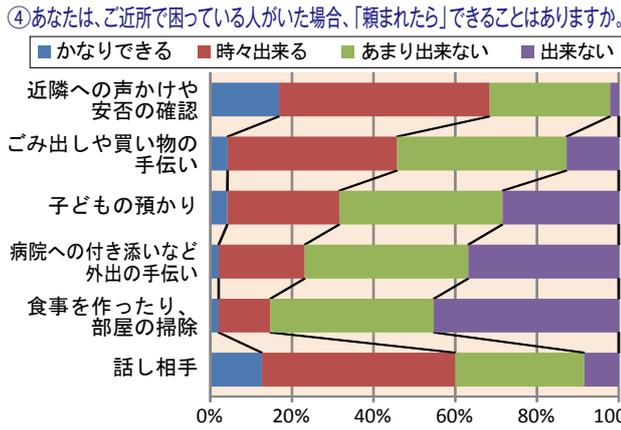


②あなたは、福祉に関心をお持ちですか。



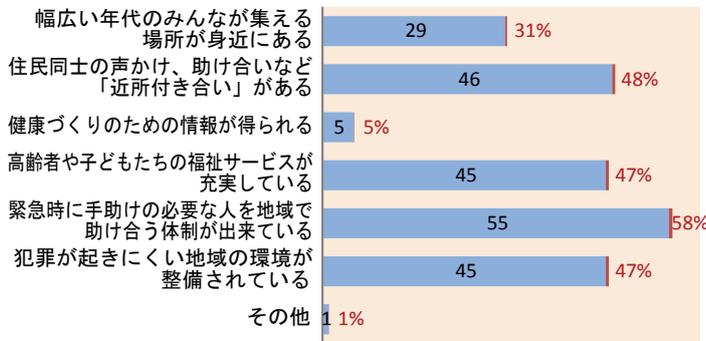
約8割の方は地域での課題解決には住民同士の協力関係が必要と感じておられます。一方、「必要ない」との意見も6%ありました。

⑤「あなたの住むこの県主を、より住みやすくするために、どのようなことが必要だと思いますか」では複数回答として



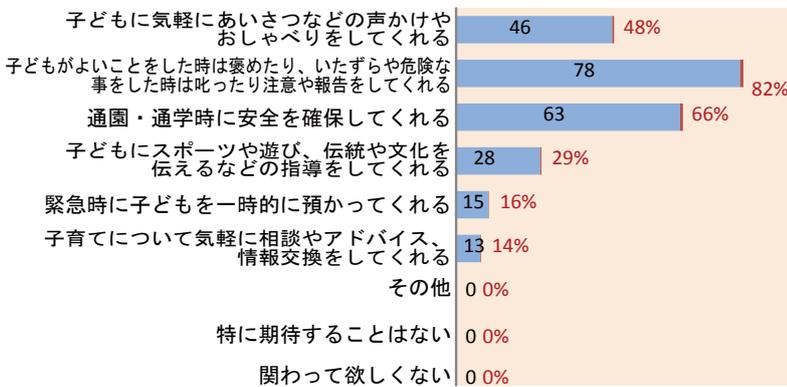
④「あなたは、近隣で困っている人がいた場合、「頼まれたら」できることはありますか。」については、「かなりできる」「話し相手」については、「かなりできる」「時々出来る」と約6割の方が回答されています。続いて「ごみ出しや買い物の手伝い」が4割強となっていますが、「子どもの預かり」「病院への付き添いなど外出の手伝い」「食事を作ったり、部屋の掃除」については「出来る」と回答された方の割合が低い傾向が表れています。

⑤あなたの住むこの県主を、より住みやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)



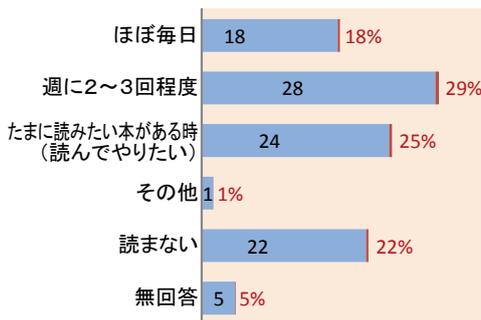
ており、回答のあった95人中、第1位は「緊急時に手助けの必要な人を地域で助け合う体制が出来ている55人」(58%)、第2位は「住民同士の声かけ、助け合いなど「近所付き合い」がある46人」(48%)と共助(地域ぐるみの助け合い)の大切さを挙げています。次いで「高齢者や子どもたちの福祉サービスが充実している」「犯罪が起きにくい地域の環境が整備されている」が同数の45人(47%)と続いています。

⑥子育てを支援する為には、家庭や子どもと地域の関わりにどのような期待をしますか。(○は3つだけ)



⑥「子育てを支援する為には、家庭や子どもと地域の関わりにどのような期待をしますか」では、複数回答としており、第1位は回答者95人中78人(82%)の方が「子どもがよいことをした時は褒めたり、いたずらや危険な事をした時は叱ったり注意や報告をしてくれる」ということを期待しておられます。次いで「通園・通学時に安全を確保してくれる63人」

⑦子どもの読書の頻度(読み聞かせの頻度)は。

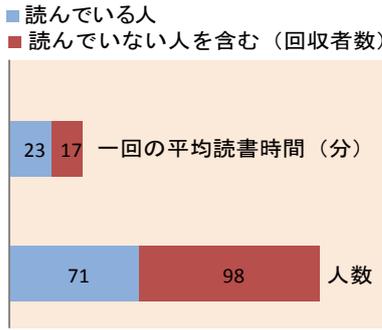


(66%)、第3位は「子どもに気軽にあいさつなどの声かけやおしゃべりをしてくれる46人」48%と続いています。また、「緊急時に子どもを一時的に預かってくれる」ことを期待している方も15人(16%)おられるなど、地域に期待する内容となっています。

⑦回答者98人中、71人(73%)と7割の子どもが読書(読み聞かせを含む)をしている。頻度では、「週に2~3回程度28人」(29%)が第1位で、続いて「たまに読みたい(読んでやりたい)本がある時24人」(25%)となつています。「ほぼ毎日読む」は18人(18%)、反対に「読まない」という子どもも22人(22%)となつています。

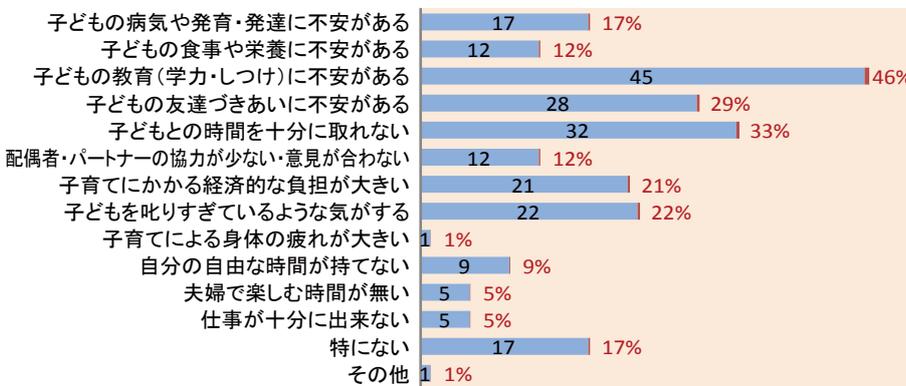
⑨「子育てに関して、日常的に悩んでいること気になることは何ですか。」では、複数回答としており、第1位は「子どもの教育（学力・しつけ）」に不安がある45人（46%）という悩みを約半数の人が抱えておられます。次いで「子どもとの時間を十分に取れない32人」（33%）、これは共稼ぎが増えている社会現象を反映した悩みと考えられます。続いて「子

⑧読書（読み聞かせを含む）をしている人の一回の平均読書時間は約23分で、読んでいない人を含む全体では約17分となっています。



子どもが本に親しむきっかけは家庭にあります。このため、さまざまな事情があるにせよ読書活動の意義を広めていく必要があると思います。

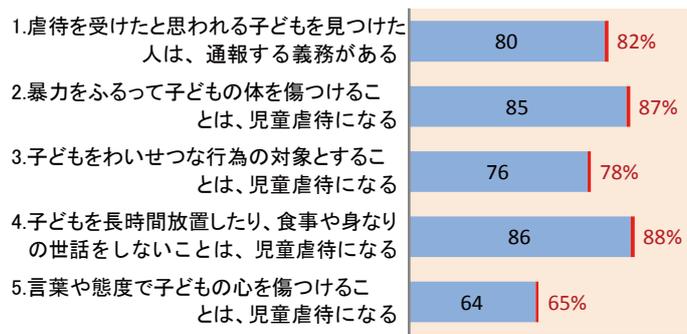
⑨子育てに関して、日常的に悩んでいること気になることは何ですか。（○はいくつでも）



どもの友達つきあいに不安がある28人」（29%）、「子どもを叱りすぎているような気がする22人」（22%）、「子育てにかかる経済的な負担が大きい21人」（21%）となっています。これは、教育費等経済的な不安と共に、子どもの成長に関わる悩みを持つておられることが伺えます。

⑩「いざという時の為に、地域での情報の共有は必要だと思いますか」との問いに対して、情報の共有は、8割強（85%）

⑩児童虐待について知っていることは何ですか。（○はいくつでも）



⑩「児童虐待について知っていることは何ですか」については、5項目とも児童虐待に該当するものです。特に「5.言葉や態度で子どもの心を傷つける」とは、児童虐待になる」と思われている人は64人（65%）と認識の低い結果となっています。児童虐待の正しい理解をさらに進める必要があると思います。

⑪いざという時の為に、あなたは、地域での情報の共有は必要だと思いますか。



「児童虐待の防止等に関する法律」は、児童虐待を受けたと思われる児童を発見した者は、速やかに、これを市町村、都道府県の設置する福祉事務所もしくは児童相談所または民生児童委員を介して「通告」しなければならないとしています（6条）。よって、虐待を受けているという確信まではなく、「もしかしたら虐待かな…」と思う程度であっても、市町村の児童福祉課や福祉事務所、児童相談所に通告する義務があるのです。通告の義務というと重苦しい雰囲気があるが、匿名で連絡することもできますし、名前を名乗ったとしても、通告者の情報は、相談先の関係者以外には知られないことになっています。また、通告の義務に違反した場合の罰則などの定めはありませんが、子どもはできるだけ地域全体が見守るようにしたいものです。

の方が、「適正に管理されていれば必要」と答えられています。一方、残りの15%の方は「個人情報を出すべきでない」と答えておられ、共助（地域ぐるみの助け合い）を進める上では、いざという時の情報が警察、消防、医療機関等必要な機関に伝えられるよう情報の共有化に理解を深めていただく必要があると思われれます。

# 県主のわだ い



11/28

## 高齢者交通教室

運転適正検査を受けました。  
安全運転で過ごせますように！

12/29

一年のすすはら  
ご協力に感謝！



各団体から50名参加いただきピカピカになりました。

1/3

## 新年互礼会



12/18

## しめなわ集会



1/24・25

## 生涯学習フェスタへ展示





1/13 盛大に開催されたとんど集会



2/8 ふれあいセンター祭り  
力作が並びました。



2/10

JA 女性部の手芸教室



おひな様をつくりました。

3/11

赤い羽根共同募金分配金より



ベンチ

ハンドベル

3/15

大谷 33 観音巡り



鳥取県東伯郡琴浦町からの  
農地・水保全活動視察を終えて

県主地域資源保全協議会 会長 西本 興

2月20日、琴浦町から12名の方が、県主地区の農地・水保全活動の視察に来られました。

琴浦町は、鳥取県の中央に位置する日本海に面した大山の麓の町、東伯郡の赤碕町と東伯町が平成16年に合併して誕生した町です。視察に来られた出上（いであみ）地区は、戸数361



戸（農家戸数185戸）人口1087人の、規模からすると県主によく似た町です。管理農用地は、約60町歩、水路18km、農道4kmで、平成24年から農地・水保全活動に取り組んでこられています。視察は、初めに県主公民館で、用意した資料を基に県主の現状を話し、また琴浦町の取り組みを聞き、さらに今後の取り組みについて情報交換を行いました。その後、水路改良やコンクリート舗装を施工した現場に足を運んで、これまでの実績に説明を加えました。

出上地区の皆さんからのお話では、琴浦町は大山の水系を受けて、日本海へ流れ込むまでの距離が短いため、河川や水路の落差が大きく、自然を相手にした井

堰や水路の維持管理が組織の重要な活動となっているようです。

このお話を聞いて、同様に農業を維持していく上で、水の無い県主の中で先人たちは苦勞してきており、「水」の大切さを再認識することができました。



視察をとおして、農業を取り巻く環境（農道や水路等）整備や農地の耕作放棄地がこれ以上増えないようにすることはもちろんのこと、地域全体の生活環境向上のために、今後も活動を継続していく必要性があると感じました。

「認知症サポーター養成講座」を受講して

県主地区社協 中野むつみ

今年度健康づくり活動として、認知症について学習しました。

初めに認知症の人への間違った対応と、適切な対応の実例をいくつか学びました。次に寸劇で、お金を盗られ妄想のあるおばあちゃん、盗ったと責められるお嫁さん、お母さんの肩を持つ孫、と迫真の演技でし





# 防犯カメラの設置



県主公民館より、防犯カメラの設置についてお知らせします。

昨年の市広報11月号で、井原市における防犯カメラ設置支援事業が開始されたことに伴い、県主地区では、自治連合会が2地区2台と、県主公民館が2台、計4台の設置申請に向けた作業に取り組みました。県主

県主公民館 館長 山本勝禎

公民館では、いち早く防犯組織を立ち上げ、申請に向け公民館管理運営委員会を開催し、設置に向け協議しました。

そして、県主公民館（本館）敷地と、同分室東側の、児童クラブ壁面の2箇所を設置申請し、今年1月に設置が認められ2月26日に工事が完了し、カメラが作動を開始しました。

公民館が設置した2台のカメラは、いずれも小学校・幼稚園の通学・通園路で子どもたちの、見守り・安全・安心と地域における犯罪の抑止に役立つと期待されています。

これからも県主が、益々安心・安全で住みよい地区になりますよう皆様の、ご

理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



## 「登下校見守りボランティア」の募集

子どもの下校時に児童と一緒に歩いて下校して下さったり、通学路沿線で農作業や散歩等をして下さり子どもたちに「おかえり」の声かけや見守り活動をしていただけるとありがたいです。

ご協力下さる方は、小学校・公民館までお問い合わせください。

ご寄付ありがとうございます

ございました

県主地区社会福祉協議会へ

池田 真様（亡祖母）

いつもありがとうございます

県主公民会へ

森岡 通様

（しめ飾り）

松山 誠様

（防犯カメラ設置への協力）

紙面をもってお礼にかえさせていただきます。

出生おめでとう

ございます

桐島伸介・百代さん

女の子 唯歌ちゃん

（9月26日生まれ）

## お知らせ

5月24日(日)

▽第36回町民体育祭

お知らせくんの活用を

公民館にある「お知らせくん」を地域内の行事や情報のお知らせにどしどし活用してください。